

企業物流短期動向調査（日通総研短観） 調査結果

（2014年12月調査）

2015年1月

株式会社 日通総合研究所

目次

I. 調査の内容.....	1
II. 調査の結果.....	3
1. 国内向け出荷量の動向	3
2. 輸送機関利用の動向	7
(1) 一般トラック	8
(2) 特別積合せトラック	9
(3) 宅配便	10
(4) 鉄道コンテナ	11
(5) 内航コンテナ	12
(6) 国内航空	13
3. 輸出入貨物量の動向	14
(1) 外貿コンテナ ー輸出ー	15
(2) 外貿コンテナ ー輸入ー	16
(3) 国際航空 ー輸出ー	17
(4) 国際航空 ー輸入ー	18
4. 在庫量と営業倉庫利用の動向	19
(1) 在庫量 ー原材料ー	20
(2) 在庫量 ー製品ー	21
(3) 営業倉庫保管量	22
5. 運賃・料金の動向	23
(1) 一般トラック運賃	24
(2) 特別積合せトラック運賃	25
(3) 鉄道コンテナ運賃	26
(4) 内航コンテナ運賃	27
(5) 国内航空運賃	28
(6) 営業倉庫保管料金	29
6. 物流コスト割合の動向	30

I. 調査の内容

目的 : 本調査は、足もとの出荷状況等を各企業（事業所）の物流担当者に直接回答していただくことで、荷主企業の物流動向について業種横断的かつ包括的な情報を、データの形で迅速に公の場に提供することを目的として実施するものである。

方法 : 本調査はアンケート方式により、四半期ベース（3月、6月、9月、12月の年4回）で実施する。

調査項目は次のとおりであり、当期実績見込みと次期見通しを対前年同期比「増加する」、「横ばい」、「減少する」もしくは「値上り」、「変わらない」、「値下り」等の3つの選択肢の中から選択回答する。

1. 国内向け出荷動向
2. 輸送機関別利用動向（一般トラック、特別積合せトラック、宅配便、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空）
3. 輸出入貨物の動向（外貿コンテナ、国際航空）
4. 在庫量（原材料、製品）と営業倉庫利用の動向
5. 運賃・料金の動向（一般トラック、特別積合せトラック、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空、営業倉庫保管）
6. 売上高に対する物流コスト割合の動向

集計は、調査項目ごとに各選択肢の回答事業所数を集計し、その合計事業所数に対する割合を算出、以下により動向判断指標^(*)とする。

$$\text{動向判断指標} = \left[\begin{array}{l} \text{「増加する（値上り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{l} \text{「減少する（値下り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right]$$

なお、この指標は荷動き等に対する各事業所の（定性的な）動向を集約するものであり、この結果がそのまま全体としての（定量的な）出荷量などの増減を意味するものではない。

(*) 動向判断指標：本調査では、調査項目に応じて『荷動き指数』、『運賃動向指数』等の名称を付している。

調査対象 : 製造業、卸売業の主要2,500事業所を対象とする。

—今回調査の回収・集計状況—

今回調査は、2014年10～12月の実績と2015年1～3月の見通しを12月初旬時点でうかがったものであり、1,016社からご協力をいただき、回答率は40.6%となった。

なお、業種別にみた調査対象企業数、回答企業数ならびに回答率は、次表のとおりである。

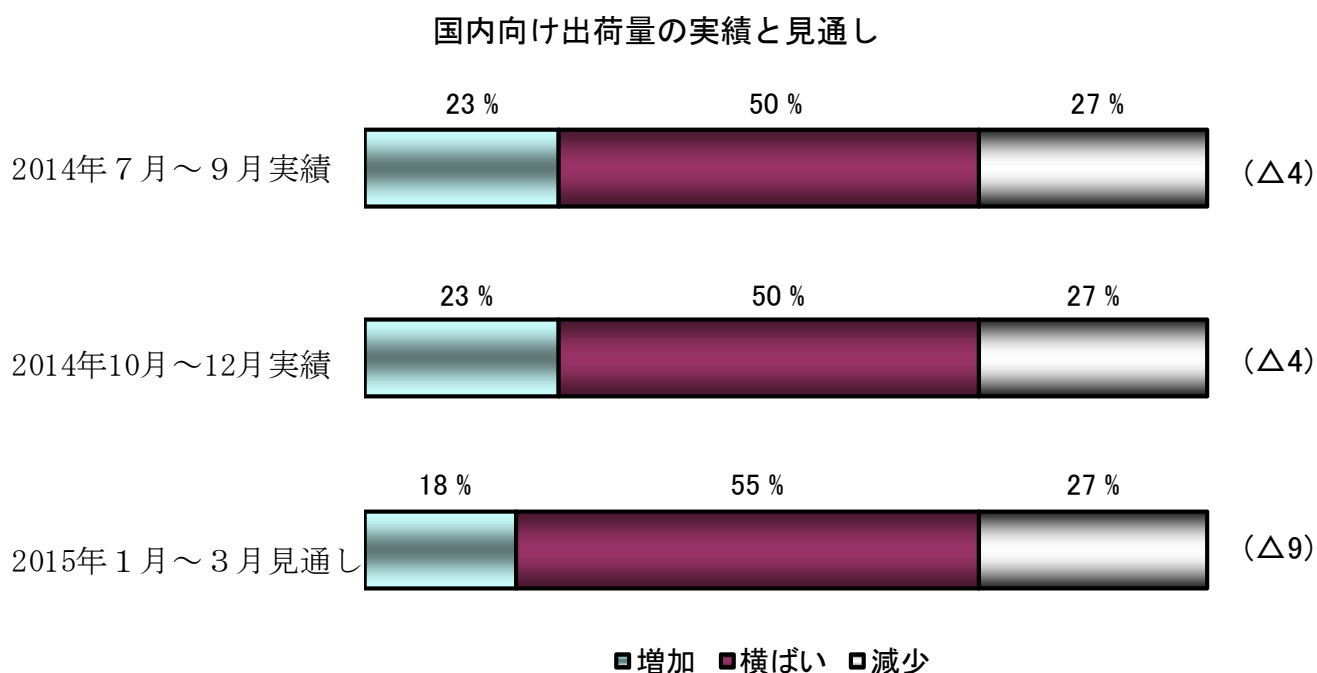
調査対象企業数と回答企業数

業 種		調査対象 企業数	回 答 企業数	回答率(%)
製 造 業	食 料 品 ・ 飲 料	232	101	43.5
	繊 維 ・ 衣 服	111	38	34.2
	木 材 ・ 家 具	95	34	35.8
	パ ル プ ・ 紙	107	48	44.9
	化学・プラスチック	239	115	48.1
	窯 業 ・ 土 石	102	41	40.2
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	195	107	54.9
	金 属 製 品	128	50	39.1
	一 般 機 械	222	92	41.4
	電 気 機 械	333	116	34.8
	輸 送 用 機 械	251	93	37.1
	精 密 機 械	68	22	32.4
	そ の 他	167	56	33.5
	計	2,250	913	40.6
卸 売 業	生 産 財	124	52	41.9
	消 費 財	126	51	40.5
	計	250	103	41.2
合 計		2,500	1,016	40.6

Ⅱ. 調査の結果

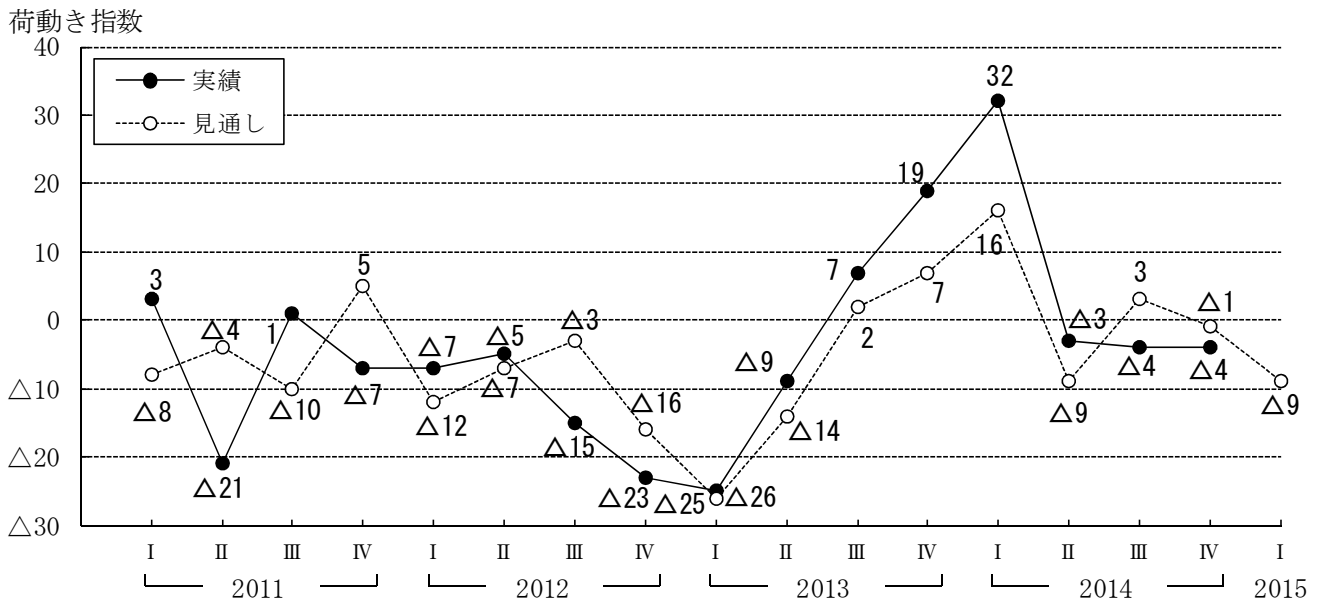
－ 1. 国内向け出荷量の動向－

- 2014年10～12月実績（見込み）における国内向け出荷量の動向をみると、前年同期比で「増加」との回答が前期（2014年7～9月）実績から横ばいで推移し23%となった。また、「減少」との回答も前期から横ばいで推移して27%となり、この結果『荷動き指数』（＝「増加」の回答割合－「減少」の回答割合）は△4と横ばいになった。
- 2015年1～3月見通しの出荷量については、前年同期比で「増加」との回答が前期（2014年10～12月）実績（見込み）より5ポイント低下し18%となる一方、「減少」との回答は横ばいで推移して27%になる。この結果、『荷動き指数』は5ポイント低下して△9と見込まれる。



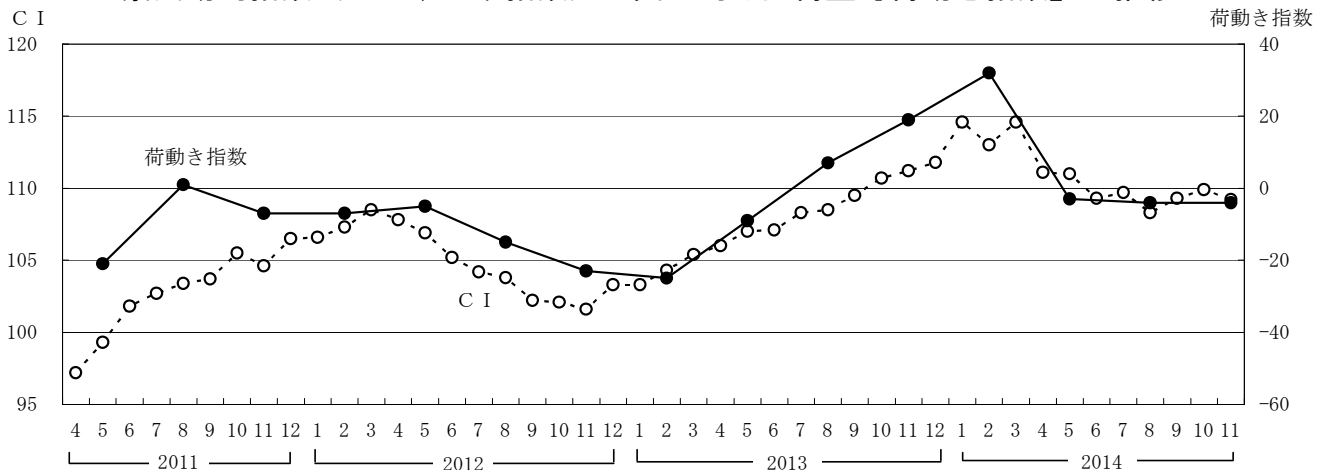
■ 今回調査の『荷動き指数』を前回までの調査と比較すると、消費税増税前の駆け込み需要の発生などを受けて、2013年10～12月実績ではプラス19、2014年1～3月実績ではプラス32と、本調査を開始した2002年以降では最高値を示した。しかし、駆け込み需要の反動などから、4～6月実績では一転して35ポイントの大幅な下降となり、7～9月実績、10～12月実績（見込み）でも△4と低調に推移した。さらに、2015年1～3月見通しでは、前年同期における大幅な盛り上がりの反動もあって、△9とさらに悪化するものとみられる。

荷動きの実績（見込み）と見通しの『荷動き指数』



注) 点線は各期に入る前の時点の見通しにおける『荷動き指数』(2015年I期の『荷動き指数』は今回調査時点の見通し)、実線は各期の途中の時点で判断した実績見込みの『荷動き指数』(2014年IV期の『荷動き指数』は今回調査における判断)。

景気動向指数 (C I ; 一致指数) と国内向け出荷量『荷動き指数』の推移



注) 1. 荷動き指数は四半期ごとの数値のため、2月、5月、8月、11月の位置にプロットしている。
2. 景気動向指数研究会によると、第15循環における景気の山は2012年4月(暫定)、景気の谷は2012年11月(暫定)となっている。

■ 2014年10～12月の業種別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、全15業種中9業種において前期（2014年7～9月）実績よりも上昇した。鉄鋼・非鉄など4業種がプラス、電気機械および精密機械がゼロ水準で、金属製品、生産財卸など9業種がマイナスとなった。

■ 2015年1～3月の『荷動き指数』見通しでは、精密機械がプラスに浮上する一方、鉄鋼・非鉄など4業種がマイナスに沈むなど、11業種において悪化が見込まれる。この結果、プラスの業種は一般機械および精密機械の2業種にとどまり、残り13業種がマイナスになるものとみられる。

国内向け出荷量の実績と見通し（業種別）

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	101	27	54	19	8	100	18	62	20	△ 2	
繊維・衣服	37	8	68	24	△ 16	37	11	59	30	△ 19	
木材・家具	32	13	56	31	△ 18	32	15	41	44	△ 29	
パルプ・紙	45	22	40	38	△ 16	45	18	38	44	△ 26	
化学・プラスチック	114	21	54	25	△ 4	114	11	71	18	△ 7	
製 窯業・土石	40	19	48	33	△ 14	40	20	45	35	△ 15	
造 鉄鋼・非鉄	107	32	48	20	12	107	20	50	30	△ 10	
業 金属製品	50	20	40	40	△ 20	50	18	54	28	△ 10	
一般機械	90	30	46	24	6	90	29	49	22	7	
電気機械	114	25	50	25	0	114	18	58	24	△ 6	
輸送用機械	87	23	46	31	△ 8	87	22	47	31	△ 9	
精密機械	21	14	72	14	0	21	29	52	19	10	
その他	55	25	55	20	5	55	16	62	22	△ 6	
計	893	24	50	26	△ 2	892	19	55	26	△ 7	
卸売業	生産財	51	12	49	39	△ 27	51	12	55	33	△ 21
	消費財	49	22	49	29	△ 7	49	14	47	39	△ 25
	計	100	17	49	34	△ 17	100	13	51	36	△ 23
合計	993	23	50	27	△ 4	992	18	55	27	△ 9	

■ 2014年10～12月の地域別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、九州・沖縄で2ケタのプラスを示したほか、北陸・信越、近畿、中国でもプラスとなった。一方、北海道、東北、関東、東海ではマイナスを示すなど、地域により若干の温度差がみられた。前期（2014年7～9月）実績との比較では、5地域で上昇する一方、4地域では低下した。

■ 2015年1～3月の『荷動き指数』見通しでは、関東および中国で小幅ながらも改善する一方、残り7地域において低下の動きがみられ、北陸・信越、近畿、四国、九州・沖縄ではマイナスに沈む見込みである。プラスの地域は中国のみで、総じて荷動きは減退傾向にある。

国内向け出荷量の実績と見通し（地域別）

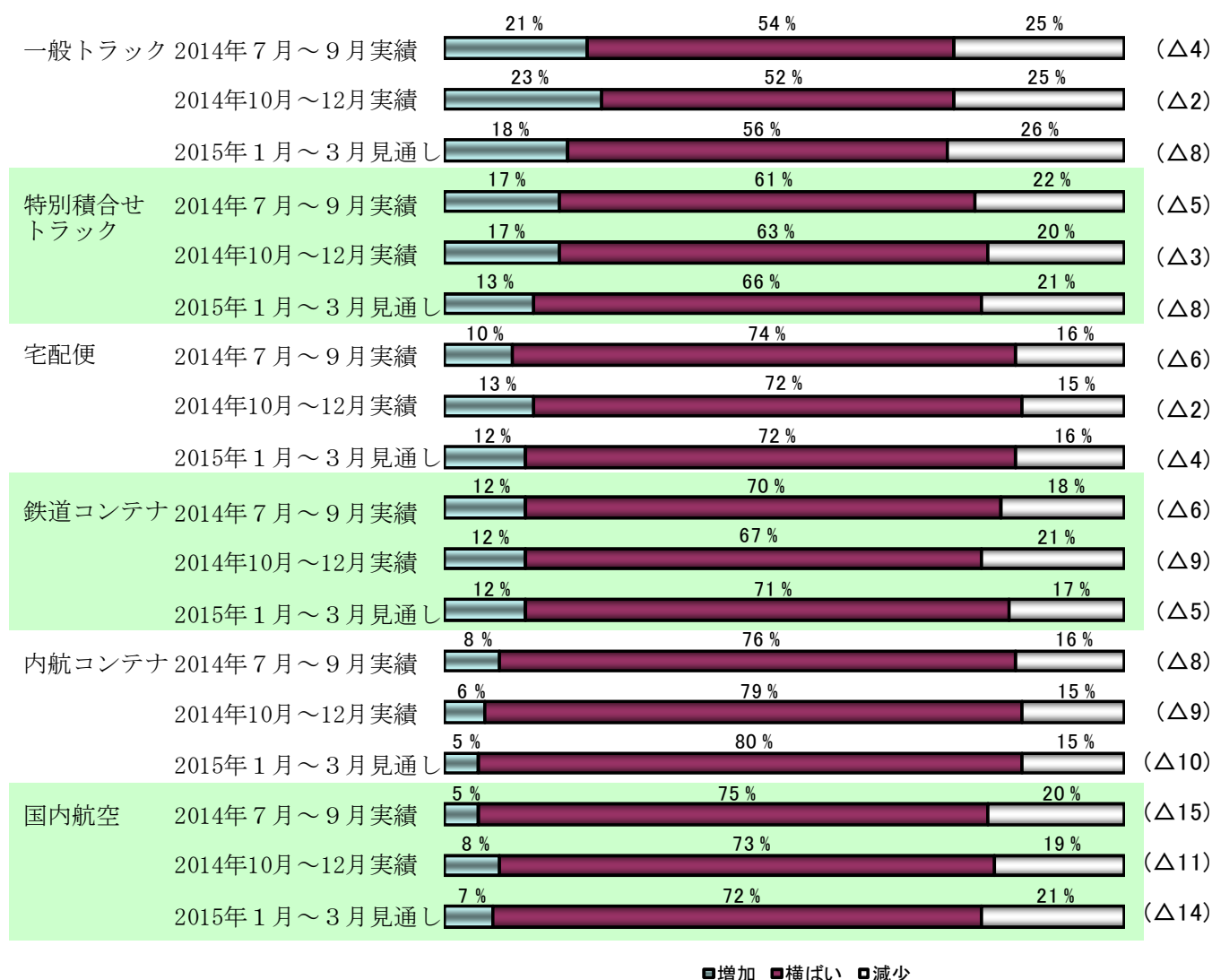
地 域	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
北 海 道	47	15	47	38	△ 23	47	6	54	40	△ 34
東 北	94	20	49	31	△ 11	94	17	54	29	△ 12
関 東	246	22	52	26	△ 4	246	22	53	25	△ 3
北 陸 ・ 信 越	95	31	40	29	2	94	18	49	33	△ 15
東 海	146	18	53	29	△ 11	146	14	56	30	△ 16
近 畿	145	26	50	24	2	145	21	53	26	△ 5
中 国	97	26	53	21	5	97	23	61	16	7
四 国	52	23	54	23	0	52	13	56	31	△ 18
九 州 ・ 沖 縄	71	28	54	18	10	71	14	59	27	△ 13
合 計	993	23	50	27	△ 4	992	18	55	27	△ 9

－ 2. 輸送機関利用の動向－

■ 2014年10～12月実績（見込み）の輸送機関別『利用動向指数』は、一般トラック、特別積合せトラック、宅配便、国内航空の4輸送機関では前期（2014年7～9月）実績よりも改善した。ただし、すべての輸送機関において『利用動向指数』はマイナスを示している。

■ 2015年1～3月の見通しでは、鉄道コンテナにおいて『利用動向指数』が改善する一方、その他の輸送機関では悪化がみられる。この結果、引き続きすべての輸送機関において『利用動向指数』がマイナスとなり、利用の減退が続く見通しである。

各輸送機関の利用の実績と見通し



(1) 一般トラック

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、精密機械など5業種がプラス、電気機械がゼロ水準で、金属製品、生産財卸など9業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2014年7～9月）実績から2ポイント上昇して△2となった。

■ 2015年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、一般機械など3業種において小幅ながらも改善する一方、食料品・飲料、鉄鋼・非鉄、電気機械の3業種がマイナスに沈み、その他の製造業もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△8と6ポイント低下する見通しで、利用はあっさり減退するものとみられる。

一般トラック利用の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	98	24	54	22	2	95	13	66	21	△8
	繊維・衣服	33	12	70	18	△6	33	9	64	27	△18
	木材・家具	33	15	58	27	△12	33	15	46	39	△24
	パルプ・紙	48	27	42	31	△4	48	17	48	35	△18
	化学・プラスチック	112	21	54	25	△4	111	14	68	18	△4
	窯業・土石	40	17	53	30	△13	40	19	48	33	△14
	鉄鋼・非鉄	106	34	48	18	16	106	20	55	25	△5
	金属製品	50	18	50	32	△14	50	18	56	26	△8
	一般機械	91	32	42	26	6	90	31	45	24	7
	電気機械	110	24	52	24	0	110	17	60	23	△6
	輸送用機械	86	21	49	30	△9	86	20	47	33	△13
	精密機械	18	28	67	5	23	18	33	50	17	16
	その他	55	24	56	20	4	55	22	56	22	0
計	880	24	52	24	0	875	19	56	25	△6	
卸 売 業	生産財	47	13	57	30	△17	45	13	60	27	△14
	消費財	48	21	54	25	△4	48	17	50	33	△16
	計	95	17	56	27	△10	93	15	55	30	△15
合計	975	23	52	25	△2	968	18	56	26	△8	

(2) 特別積合せトラック

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、鉄鋼・非鉄、その他の製造業、生産財卸の3業種がプラス、食料品・飲料など3業種がゼロ水準で、金属製品、精密機械など9業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2014年7～9月）実績から2ポイント上昇して△3となった。

■ 2015年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、一般機械がプラスに浮上する一方、食料品・飲料など6業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△8と5ポイント低下する見通しで、利用はいつそう減退するものみられる。

特別積合せトラック利用の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	67	16	68	16	0	66	11	68	21	△10
	繊維・衣服	29	10	73	17	△7	29	10	73	17	△7
	木材・家具	22	13	64	23	△10	22	9	64	27	△18
	パルプ・紙	27	26	44	30	△4	27	22	48	30	△8
	化学・プラスチック	102	15	67	18	△3	102	10	75	15	△5
	窯業・土石	33	15	70	15	0	33	15	64	21	△6
	鉄鋼・非鉄	68	22	60	18	4	68	15	63	22	△7
	金属製品	36	6	61	33	△27	36	3	69	28	△25
	一般機械	61	18	61	21	△3	60	22	58	20	2
	電気機械	84	23	54	23	0	83	19	59	22	△3
	輸送用機械	66	12	67	21	△9	66	14	65	21	△7
	精密機械	13	0	77	23	△23	13	0	69	31	△31
	その他	38	21	63	16	5	38	11	71	18	△7
計	646	17	63	20	△3	643	13	66	21	△8	
卸 売 業	生産財	38	18	66	16	2	36	17	61	22	△5
	消費財	35	11	66	23	△12	35	8	69	23	△15
	計	73	15	66	19	△4	71	12	65	23	△11
合計	719	17	63	20	△3	714	13	66	21	△8	

(3) 宅配便

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、一般機械など4業種がプラス、パルプ・紙がゼロ水準で、窯業・土石、消費財卸など10業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2014年7～9月）実績から4ポイント上昇して△2となった。

■ 2015年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、金属製品など4業種において改善する一方、パルプ・紙がマイナスに沈むなど、11業種において悪化が見込まれる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△4と2ポイント低下する見通しで、利用は引き続き減退するものとみられる。

宅配便利用の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	79	19	66	15	4	77	16	71	13	3
	繊維・衣服	35	6	77	17	△11	34	5	74	21	△16
	木材・家具	27	7	82	11	△4	27	11	67	22	△11
	パルプ・紙	30	17	66	17	0	30	13	67	20	△7
	化学・プラスチック	89	8	80	12	△4	89	6	79	15	△9
	窯業・土石	30	10	63	27	△17	30	10	67	23	△13
	鉄鋼・非鉄	61	5	82	13	△8	61	6	79	15	△9
	金属製品	43	19	65	16	3	43	16	72	12	4
	一般機械	84	25	62	13	12	83	23	65	12	11
	電気機械	102	17	70	13	4	102	12	78	10	2
	輸送用機械	76	9	77	14	△5	76	12	75	13	△1
	精密機械	22	5	77	18	△13	22	14	68	18	△4
	その他	45	11	76	13	△2	45	9	78	13	△4
計	723	13	72	15	△2	719	12	74	14	△2	
卸 売 業	生産財	35	6	74	20	△14	35	8	66	26	△18
	消費財	44	11	64	25	△14	44	11	62	27	△16
	計	79	9	68	23	△14	79	10	63	27	△17
合計	802	13	72	15	△2	798	12	72	16	△4	

(4) 鉄道コンテナ

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、食料品・飲料および鉄鋼・非鉄がプラス、電気機械および生産財卸がゼロ水準で、残り11業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（2014年7～9月）実績から3ポイント低下して△9となった。

■ 2015年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、電気機械がマイナスに沈む一方、化学・プラスチックおよび金属製品がプラスに浮上し、その他の製造業もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△5と4ポイント上昇する見通しで、利用は引き続き減退するものの、いくぶん改善に向かうものとみられる。

鉄道コンテナ利用の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	45	18	67	15	3	45	18	67	15	3
	繊維・衣服	11	10	45	45	△35	11	9	64	27	△18
	木材・家具	18	11	72	17	△6	18	5	78	17	△12
	パルプ・紙	36	16	53	31	△15	36	14	61	25	△11
	化学・プラスチック	82	12	68	20	△8	82	13	75	12	1
	窯業・土石	14	7	50	43	△36	14	7	50	43	△36
	鉄鋼・非鉄	44	20	66	14	6	44	16	73	11	5
	金属製品	20	5	70	25	△20	20	10	85	5	5
	一般機械	39	5	80	15	△10	39	5	77	18	△13
	電気機械	30	13	74	13	0	30	7	83	10	△3
	輸送用機械	36	8	73	19	△11	36	11	70	19	△8
	精密機械	7	0	86	14	△14	7	0	86	14	△14
その他	27	14	67	19	△5	27	19	62	19	0	
計	409	12	68	20	△8	409	12	72	16	△4	
卸 売 業	生産財	12	25	50	25	0	12	25	50	25	0
	消費財	18	5	56	39	△34	18	0	67	33	△33
	計	30	13	54	33	△20	30	10	60	30	△20
合計	439	12	67	21	△9	439	12	71	17	△5	

(5) 内航コンテナ

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、一般機械が唯一プラスを示し、パルプ・紙がゼロ水準で、残り13業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は△9で、前期（2014年7～9月）実績からは弱含み横ばいで推移した。

■ 2015年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄など4業種において改善する一方、パルプ・紙がマイナスに沈み、一般機械もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△10と弱含み横ばいで推移する見通しで、利用はあっさり減退するのみみられる。

内航コンテナ利用の実績と見通し

業種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	30	10	73	17	△7	29	7	72	21	△14
	繊維・衣服	4	0	50	50	△50	4	0	50	50	△50
	木材・家具	10	0	90	10	△10	10	0	90	10	△10
	パルプ・紙	19	11	78	11	0	19	5	79	16	△11
	化学・プラスチック	50	4	88	8	△4	50	2	90	8	△6
	窯業・土石	7	0	86	14	△14	7	0	86	14	△14
	鉄鋼・非鉄	29	3	87	10	△7	29	7	83	10	△3
	金属製品	16	0	81	19	△19	16	0	94	6	△6
	一般機械	35	17	74	9	8	35	11	78	11	0
	電気機械	24	4	88	8	△4	24	4	88	8	△4
	輸送用機械	30	7	73	20	△13	30	10	70	20	△10
	精密機械	7	0	86	14	△14	7	0	86	14	△14
	その他	20	10	75	15	△5	21	5	76	19	△14
計	281	7	80	13	△6	281	5	81	14	△9	
卸売業	生産財	6	0	67	33	△33	6	0	50	50	△50
	消費財	13	0	54	46	△46	13	0	62	38	△38
	計	19	0	58	42	△42	19	0	58	42	△42
合計	300	6	79	15	△9	300	5	80	15	△10	

(6) 国内航空

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『利用動向指数』は、輸送用機械が唯一プラスを示し、パルプ・紙および一般機械がゼロ水準で、残り12業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は△11で、前期（2014年7～9月）実績からは4ポイント上昇した。

■ 2015年1～3月の『利用動向指数』見通しでは、木材・家具、鉄鋼・非鉄、金属製品の3業種がゼロ水準まで戻す一方、パルプ・紙、一般機械、輸送用機械の3業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△14と3ポイントの低下が見込まれ、国内航空はすべての国内輸送機関のなかで『利用動向指数』がもっとも低く、利用の減退が続く見通しである。

国内航空利用の実績と見通し

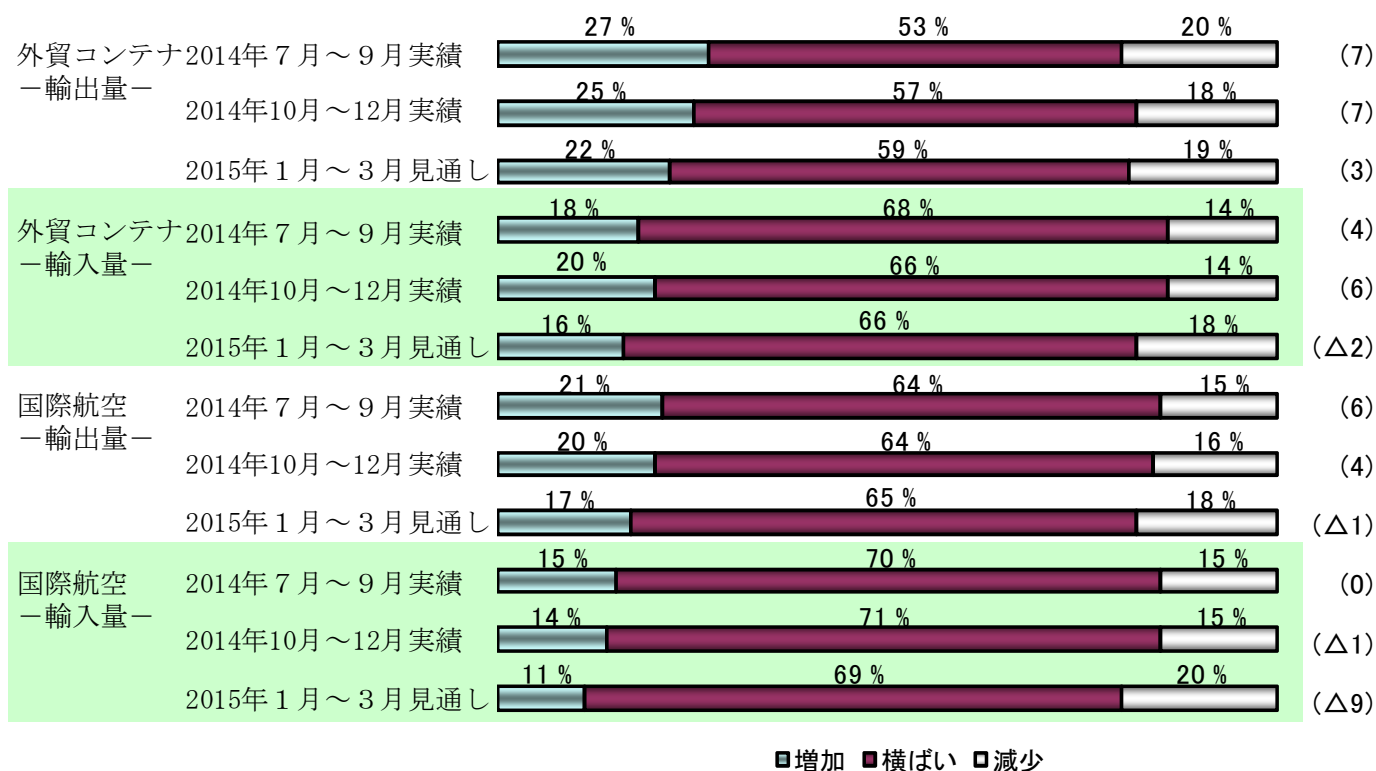
業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	24	0	67	33	△ 33	24	0	58	42	△ 42
	繊維・衣服	7	0	71	29	△ 29	7	14	57	29	△ 15
	木材・家具	10	0	90	10	△ 10	10	10	80	10	0
	パルプ・紙	6	17	66	17	0	6	0	67	33	△ 33
	化学・プラスチック	41	2	83	15	△ 13	41	2	83	15	△ 13
	窯業・土石	9	11	33	56	△ 45	9	11	33	56	△ 45
	鉄鋼・非鉄	23	4	87	9	△ 5	23	9	82	9	0
	金属製品	18	6	83	11	△ 5	18	6	88	6	0
	一般機械	46	15	70	15	0	45	13	69	18	△ 5
	電気機械	52	13	68	19	△ 6	52	8	73	19	△ 11
	輸送用機械	31	10	84	6	4	31	0	87	13	△ 13
	精密機械	10	0	80	20	△ 20	10	10	70	20	△ 10
	その他	19	5	74	21	△ 16	19	5	74	21	△ 16
計	296	7	75	18	△ 11	295	6	75	19	△ 13	
卸 売 業	生産財	8	12	50	38	△ 26	8	12	38	50	△ 38
	消費財	16	13	56	31	△ 18	16	13	56	31	△ 18
	計	24	13	54	33	△ 20	24	12	50	38	△ 26
合計	320	8	73	19	△ 11	319	7	72	21	△ 14	

－ 3. 輸出入貨物量の動向－

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』をみると、外貿コンテナの輸入では前期（2014年7～9月）実績よりも上昇する一方、外貿コンテナの輸出では横ばい、国際航空の輸出・輸入では低下となった。外貿コンテナの輸出・輸入および国際航空の輸出では引き続きプラスを示す一方、国際航空の輸入では小幅ながらマイナスに落ち込んだ。

■ 2015年1～3月の見通しでは、すべての輸送機関において『荷動き指数』が悪化する見込みである。外貿コンテナの輸出では引き続きプラスを維持するものの、外貿コンテナの輸入、国際航空の輸出・輸入ではマイナスとなる見込みである。

輸出入貨物量の実績と見通し



(1) 外貿コンテナ ー輸出ー

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』は、化学・プラスチック、窯業・土石など8業種がプラス、食料品・飲料など3業種がゼロ水準で、繊維・衣服など4業種がマイナスとなった。業種全体の『荷動き指数』はプラス7で、前期（2014年7～9月）実績からは横ばいで推移した。

■ 2015年1～3月の『荷動き指数』見通しでは、一般機械など3業種において上昇する一方、食料品・飲料など4業種がマイナスに沈み、窯業・土石およびその他の製造業もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『荷動き指数』はプラス3と4ポイント低下する見通しで、増勢は若干弱まるものとみられる。

外貿コンテナによる輸出量の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	16	25	50	25	0	16	19	50	31	△ 12
	繊維・衣服	15	6	67	27	△ 21	15	6	67	27	△ 21
	木材・家具	9	11	78	11	0	9	11	67	22	△ 11
	パルプ・紙	18	28	61	11	17	18	22	67	11	11
	化学・プラスチック	66	32	55	13	19	66	24	65	11	13
	窯業・土石	18	39	50	11	28	18	22	56	22	0
	鉄鋼・非鉄	51	22	67	11	11	51	17	61	22	△ 5
	金属製品	21	14	76	10	4	20	20	70	10	10
	一般機械	60	35	42	23	12	59	34	47	19	15
	電気機械	50	30	58	12	18	50	30	54	16	14
	輸送用機械	54	19	48	33	△ 14	54	18	56	26	△ 8
	精密機械	10	10	60	30	△ 20	10	20	40	40	△ 20
	その他	21	24	57	19	5	21	19	62	19	0
計	409	26	56	18	8	407	23	58	19	4	
卸 売 業	生産財	10	10	80	10	0	10	10	70	20	△ 10
	消費財	11	9	73	18	△ 9	11	0	73	27	△ 27
	計	21	10	76	14	△ 4	21	5	71	24	△ 19
合計	430	25	57	18	7	428	22	59	19	3	

(2) 外貿コンテナ ー輸入ー

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』は、一般機械、その他の製造業など8業種がプラス、食料品・飲料およびパルプ・紙がゼロ水準で、生産財卸など5業種がマイナスとなった。業種全体の『荷動き指数』はプラス6で、前期（2014年7～9月）実績からは2ポイント上昇した。

■ 2015年1～3月の『荷動き指数』見通しでは、パルプ・紙がプラスに浮上する一方、その他の製造業など4業種がマイナスに沈み、鉄鋼・非鉄もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『荷動き指数』は△2と8ポイント低下する見通しで、荷動きは減退方向に向かうとみられる。

外貿コンテナによる輸入量の実績と見通し

業種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	16	6	88	6	0	16	6	81	13	△7
	繊維・衣服	16	25	56	19	6	15	33	54	13	20
	木材・家具	12	8	67	25	△17	12	8	59	33	△25
	パルプ・紙	9	22	56	22	0	9	22	67	11	11
	化学・プラスチック	59	12	78	10	2	59	15	75	10	5
	窯業・土石	19	21	63	16	5	19	16	58	26	△10
	鉄鋼・非鉄	33	12	82	6	6	33	12	76	12	0
	金属製品	17	6	82	12	△6	17	6	76	18	△12
	一般機械	58	33	59	8	25	57	25	65	10	15
	電気機械	52	27	56	17	10	52	15	64	21	△6
	輸送用機械	55	22	64	14	8	55	22	62	16	6
	精密機械	11	18	46	36	△18	11	18	46	36	△18
その他	22	23	68	9	14	22	18	50	32	△14	
計	379	20	67	13	7	377	18	66	16	2	
卸売業	生産財	16	12	50	38	△26	16	6	63	31	△25
	消費財	14	14	57	29	△15	14	0	57	43	△43
	計	30	13	54	33	△20	30	3	60	37	△34
合計	409	20	66	14	6	407	16	66	18	△2	

(3) 国際航空 —輸出—

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』は、化学・プラスチック、一般機械など5業種がプラス、木材・家具など4業種がゼロ水準で、食料品・飲料など6業種がマイナスとなった。業種全体の『荷動き指数』はプラス4で、前期（2014年7～9月）実績からは2ポイント低下した。

■ 2015年1～3月の『荷動き指数』見通しでは、繊維・衣服および金属製品がゼロ水準まで戻す一方、窯業・土石、鉄鋼・非鉄、その他の製造業の3業種がマイナスに沈み、化学・プラスチック、電気機械、輸送用機械の3業種もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『荷動き指数』は△1と5ポイント低下する見通しで、荷動きは減退方向に向かうとみられる。

国際航空による輸出量の実績と見通し

業種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	6	0	67	33	△ 33	6	0	67	33	△ 33
	繊維・衣服	8	0	88	12	△ 12	9	11	78	11	0
	木材・家具	4	0	100	0	0	4	0	100	0	0
	パルプ・紙	5	20	60	20	0	5	20	60	20	0
	化学・プラスチック	39	21	72	7	14	38	13	74	13	0
	窯業・土石	10	40	30	30	10	10	10	50	40	△ 30
	鉄鋼・非鉄	26	19	62	19	0	26	12	73	15	△ 3
	金属製品	13	0	92	8	△ 8	13	8	84	8	0
	一般機械	60	27	60	13	14	60	30	57	13	17
	電気機械	60	27	53	20	7	60	25	50	25	0
	輸送用機械	40	18	68	14	4	40	13	74	13	0
精密機械	13	15	62	23	△ 8	12	8	67	25	△ 17	
その他	18	22	56	22	0	18	17	61	22	△ 5	
計	302	21	63	16	5	301	18	64	18	0	
卸売業	生産財	7	14	57	29	△ 15	7	14	43	43	△ 29
	消費財	7	0	86	14	△ 14	7	0	86	14	△ 14
	計	14	7	72	21	△ 14	14	7	64	29	△ 22
合計	316	20	64	16	4	315	17	65	18	△ 1	

(4) 国際航空 —輸入—

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『荷動き指数』は、一般機械など4業種がプラス、木材・家具および生産財卸がゼロ水準で、食料品・飲料、その他の製造業など9業種がマイナスとなった。業種全体の『荷動き指数』は△1で、前期（2014年7～9月）実績からは弱含み横ばいで推移下した。

■ 2015年1～3月の『荷動き指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄および精密機械において改善する一方、生産財卸など4業種がマイナスに沈むなど、7業種において悪化する。この結果、業種全体の『荷動き指数』は△9と8ポイント低下する見通しで、荷動きはいつそう減退するものみられる。

国際航空による輸入量の実績と見通し

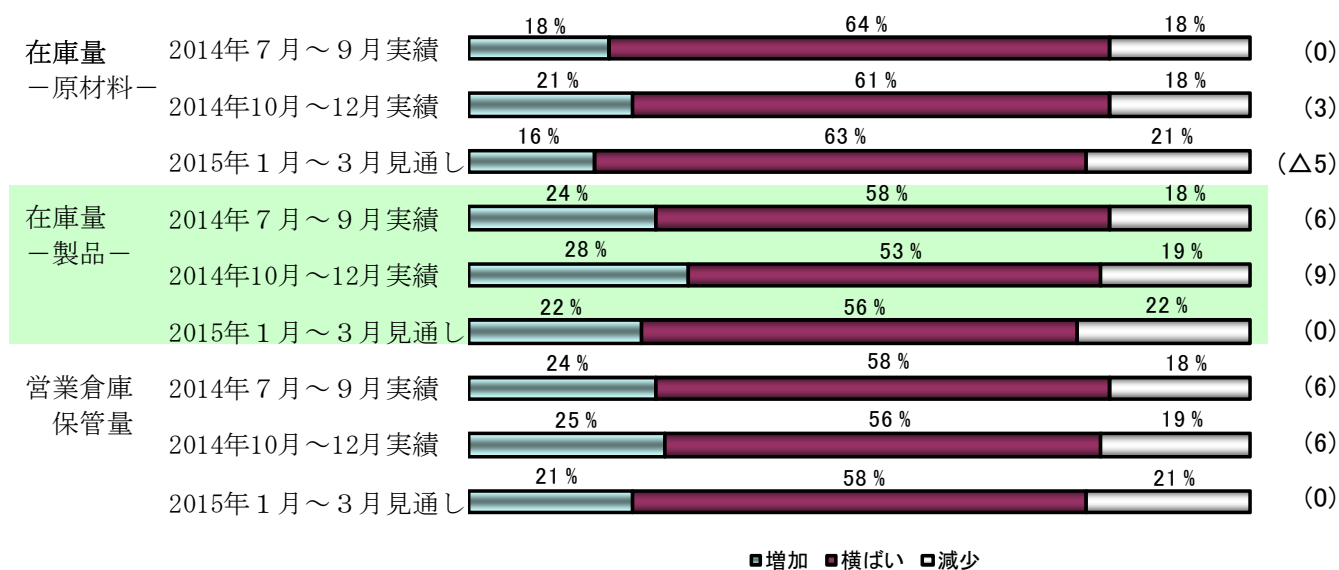
業種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	6	0	50	50	△ 50	6	0	50	50	△ 50
	繊維・衣服	9	0	78	22	△ 22	9	0	78	22	△ 22
	木材・家具	3	0	100	0	0	3	0	100	0	0
	パルプ・紙	4	0	75	25	△ 25	4	0	75	25	△ 25
	化学・プラスチック	33	9	85	6	3	33	6	82	12	△ 6
	窯業・土石	11	18	55	27	△ 9	11	9	55	36	△ 27
	鉄鋼・非鉄	19	5	79	16	△ 11	19	5	84	11	△ 6
	金属製品	12	0	92	8	△ 8	12	0	92	8	△ 8
	一般機械	51	24	63	13	11	51	15	65	20	△ 5
	電気機械	51	20	67	13	7	51	19	59	22	△ 3
	輸送用機械	38	16	74	10	6	38	13	76	11	2
	精密機械	14	7	72	21	△ 14	14	14	65	21	△ 7
	その他	17	18	53	29	△ 11	17	18	41	41	△ 23
計	268	14	71	15	△ 1	268	12	69	19	△ 7	
卸売業	生産財	8	13	74	13	0	8	0	63	37	△ 37
	消費財	9	0	78	22	△ 22	9	0	78	22	△ 22
	計	17	6	76	18	△ 12	17	0	71	29	△ 29
合計	285	14	71	15	△ 1	285	11	69	20	△ 9	

－ 4. 在庫量と営業倉庫利用の動向－

■ 2014年10～12月実績（見込み）の在庫量と営業倉庫保管量の動向をみると、原材料在庫および製品在庫では、『動向指数』は前期（2014年7～9月）実績よりも上昇する一方、営業倉庫保管量では横ばいで推移した。この結果、すべての『動向指数』がプラスとなった。

■ 2015年1～3月の見通しについては、すべての『動向指数』において低下が見込まれ、製品在庫および営業倉庫保管量ではゼロ水準にとどまる一方、原材料在庫ではマイナスに沈む見通しである。このため、在庫量および営業倉庫保管量は横ばいないしは縮小の方向に動くものとみられる。

在庫量と営業倉庫保管量の実績と見通し



(1) 在庫量 —原材料—

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、木材・家具、一般機械など7業種がプラス、繊維・衣服がゼロ水準で、生産財卸、消費財卸など7業種がマイナスとなった。業種全体の『在庫動向指数』はプラス3で、前期（2014年7～9月）実績からは3ポイント上昇した。

■ 2015年1～3月の『在庫動向指数』見通しでは、生産財卸および消費財卸において小幅ながらも改善する一方、繊維・衣服、鉄鋼・非鉄、電気機械の3業種がマイナスに沈み、精密機械もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『在庫動向指数』は8ポイント低下して△5と見込まれ、原材料在庫は縮小の方向に動くものとみられる。

在庫量（原材料）の実績と見通し

業種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	79	24	61	15	9	78	15	73	12	3
	繊維・衣服	35	17	66	17	0	35	11	72	17	△6
	木材・家具	29	28	62	10	18	29	24	59	17	7
	パルプ・紙	44	25	55	20	5	44	23	57	20	3
	化学・プラスチック	103	15	68	17	△2	103	10	69	21	△11
	窯業・土石	38	16	63	21	△5	38	8	63	29	△21
	鉄鋼・非鉄	98	21	64	15	6	98	13	72	15	△2
	金属製品	39	18	54	28	△10	39	2	67	31	△29
	一般機械	79	38	48	14	24	79	28	52	20	8
	電気機械	98	21	64	15	6	98	19	61	20	△1
	輸送用機械	83	19	58	23	△4	83	20	56	24	△4
	精密機械	19	26	53	21	5	19	26	48	26	0
その他	49	12	68	20	△8	49	14	59	27	△13	
計	793	22	61	17	5	792	16	63	21	△5	
卸売業	生産財	26	3	62	35	△32	26	12	46	42	△30
	消費財	27	14	56	30	△16	27	11	63	26	△15
	計	53	9	59	32	△23	53	11	55	34	△23
合計	846	21	61	18	3	845	16	63	21	△5	

(2) 在庫量 —製品—

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、パルプ・紙、一般機械など10業種がプラスで、窯業・土石など5業種がマイナスとなった。業種全体の『在庫動向指数』はプラス9で、前期（2014年7～9月）実績からは3ポイント上昇した。

■ 2015年1～3月の『在庫動向指数』見通しでは、化学・プラスチック、精密機械、その他の製造業の3業種がマイナスに沈み、電気機械もゼロ水準まで下降するなど、全業種において悪化する。この結果、業種全体の『在庫動向指数』は9ポイント低下してゼロ水準と見込まれ、製品在庫は横ばいになるものとみられる。

在庫量（製品）の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	84	33	53	14	19	83	20	67	13	7
	繊維・衣服	34	26	65	9	17	34	24	59	17	7
	木材・家具	29	38	45	17	21	29	34	42	24	10
	パルプ・紙	44	39	48	13	26	44	34	50	16	18
	化学・プラスチック	107	29	55	16	13	107	18	59	23	△ 5
	窯業・土石	40	19	48	33	△ 14	40	14	48	38	△ 24
	鉄鋼・非鉄	100	23	61	16	7	100	17	67	16	1
	金属製品	44	29	39	32	△ 3	44	16	59	25	△ 9
	一般機械	80	45	40	15	30	80	39	41	20	19
	電気機械	104	27	54	19	8	104	23	54	23	0
	輸送用機械	86	21	57	22	△ 1	86	21	52	27	△ 6
	精密機械	20	25	60	15	10	20	15	60	25	△ 10
その他	53	26	57	17	9	53	18	57	25	△ 7	
計	825	29	53	18	11	824	22	56	22	0	
卸 売 業	生産財	44	18	52	30	△ 12	44	18	48	34	△ 16
	消費財	40	12	70	18	△ 6	40	10	65	25	△ 15
	計	84	15	61	24	△ 9	84	14	56	30	△ 16
合計	909	28	53	19	9	908	22	56	22	0	

(3) 営業倉庫保管量

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『保管動向指数』は、パルプ・紙、一般機械など9業種がプラス、精密機械がゼロ水準で、窯業・土石など5業種がマイナスとなった。業種全体の『保管動向指数』はプラス6で、前期（2014年7～9月）実績からは横ばいで推移した。

■ 2015年1～3月の『保管動向指数』見通しでは、金属製品がプラスに浮上し、輸送用機械もゼロ水準まで戻す一方、その他の製造業など4業種がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『保管動向指数』は6ポイント低下してゼロ水準と見込まれ、営業倉庫保管量は横ばいになるものとみられる。

営業倉庫保管量の実績と見通し

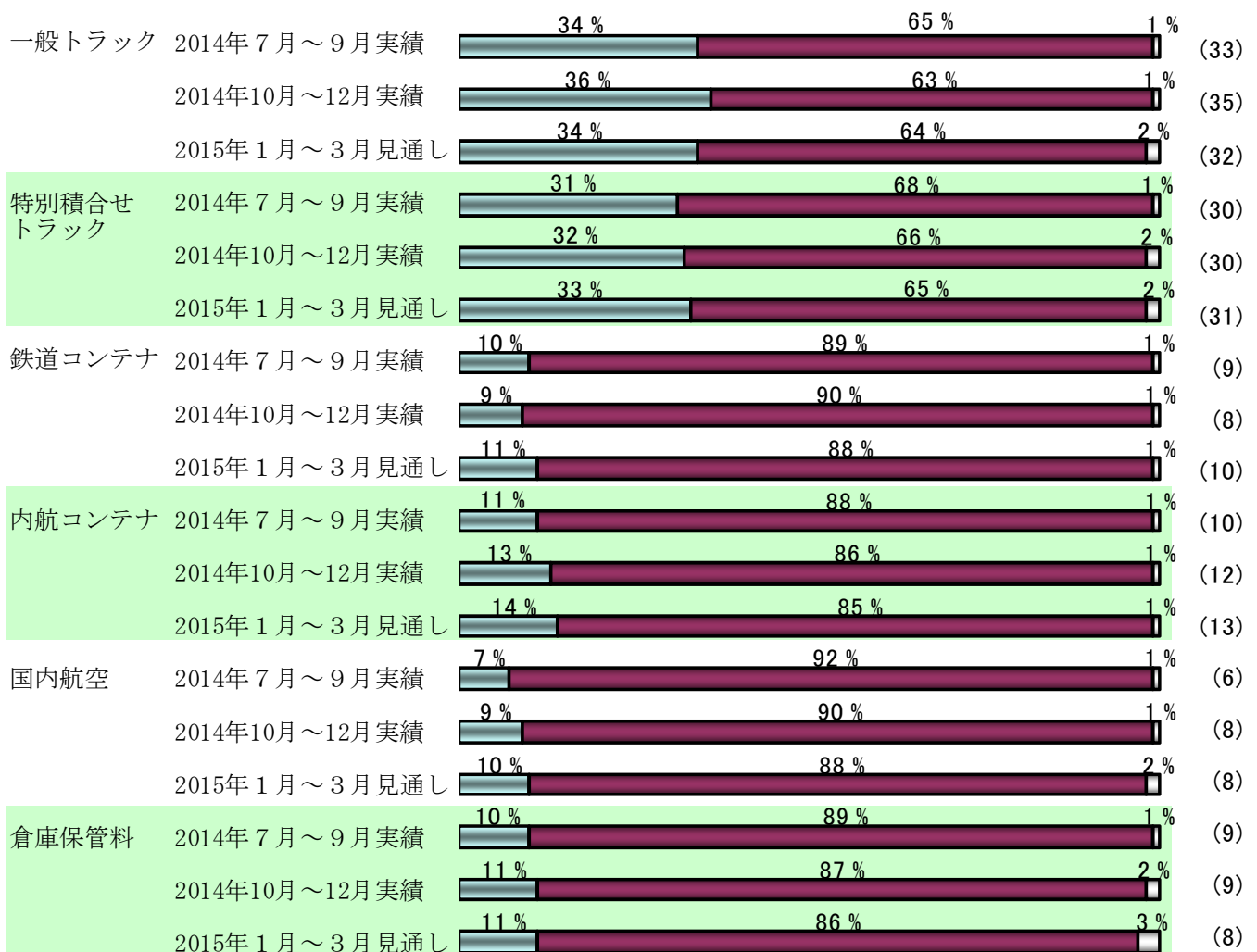
業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製 造 業	食料品・飲料	69	32	49	19	13	68	25	60	15	10
	繊維・衣服	24	25	54	21	4	24	17	58	25	△8
	木材・家具	26	15	73	12	3	26	23	62	15	8
	パルプ・紙	41	37	46	17	20	41	32	56	12	20
	化学・プラスチック	98	27	53	20	7	98	21	57	22	△1
	窯業・土石	22	9	36	55	△46	22	13	32	55	△42
	鉄鋼・非鉄	76	18	71	11	7	76	16	71	13	3
	金属製品	32	22	50	28	△6	32	19	66	15	4
	一般機械	69	42	52	6	36	69	38	48	14	24
	電気機械	70	21	59	20	1	70	16	61	23	△7
	輸送用機械	59	22	53	25	△3	59	24	52	24	0
	精密機械	16	19	62	19	0	16	19	62	19	0
	その他	43	28	51	21	7	42	19	50	31	△12
計	645	26	55	19	7	643	22	58	20	2	
卸 売 業	生産財	36	11	61	28	△17	36	14	58	28	△14
	消費財	37	16	60	24	△8	37	8	68	24	△16
	計	73	14	60	26	△12	73	11	63	26	△15
合計	718	25	56	19	6	716	21	58	21	0	

－ 5. 運賃・料金の動向－

■ 2014年10～12月の運賃・料金水準『動向指数』実績（見込み）は、一般トラック、内航コンテナ、国内航空で前期（2014年7～9月）実績よりも上昇する一方、特別積合せトラックおよび倉庫保管料では横ばい、鉄道コンテナでは低下した。『動向指数』は、すべての機関においてプラスとなった。

■ 2015年1～3月の『動向指数』見通しについては、一般トラックおよび倉庫保管料で低下し、国内航空では横ばいで推移する一方、残りの3機関においては上昇方向に動き、引き続きすべての機関で『動向指数』がプラスとなる見込みである。とくに一般トラックおよび特別積合せトラックにおいては、『動向指数』がプラス30を上回っており、運賃の上昇圧力は依然として強い。

運賃・料金の実績と見通し



■値上り ■変わらず □値下り

(1) 一般トラック運賃

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、精密機械が唯一1ケタのプラスにとどまる以外は、残り14業種が2ケタのプラスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス35で、前期(2014年7～9月)実績からは2ポイント上昇した。

■ 2015年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、過半数の業種においてプラス幅が縮小する。この結果、業種全体の『運賃動向指数』は3ポイント低下してプラス32と見込まれ、増勢は若干弱まるものの、運賃水準の上昇圧力は依然として強い。

一般トラック運賃の実績と見通し

業種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	96	57	42	1	56	94	53	46	1	52	
繊維・衣服	32	41	59	0	41	32	44	56	0	44	
木材・家具	32	41	56	3	38	32	38	56	6	32	
パルプ・紙	48	25	75	0	25	48	27	73	0	27	
化学・プラスチック	112	43	54	3	40	111	40	59	1	39	
製造業	窯業・土石	39	38	62	0	38	39	26	74	0	26
	鉄鋼・非鉄	104	38	60	2	36	104	37	62	1	36
	金属製品	49	37	63	0	37	49	29	71	0	29
	一般機械	91	31	69	0	31	91	32	68	0	32
	電気機械	111	30	68	2	28	110	28	69	3	25
	輸送用機械	84	20	76	4	16	84	25	71	4	21
	精密機械	19	16	74	10	6	19	16	74	10	6
	その他	53	25	74	1	24	52	25	73	2	23
	計	870	35	63	2	33	865	34	64	2	32
	卸売業	生産財	45	31	69	0	31	45	29	69	2
消費財		48	42	58	0	42	47	45	55	0	45
計		93	37	63	0	37	92	37	62	1	36
合計	963	36	63	1	35	957	34	64	2	32	

(2) 特別積合せトラック運賃

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、精密機械が唯一1ケタのプラスにとどまる以外は、残り14業種が2ケタのプラスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス30で、前期(2014年7～9月)実績からは横ばいで推移した。

■ 2015年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、過半数の業種においてプラス幅が拡大する。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス31と強含み横ばいの推移が見込まれ、運賃水準の上昇圧力は依然として強い。

特別積合せトラック運賃の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し				
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	64	52	48	0	52	63	51	49	0	51
繊維・衣服	28	43	57	0	43	27	48	52	0	48
木材・家具	21	38	57	5	33	21	43	52	5	38
パルプ・紙	27	33	67	0	33	27	37	63	0	37
化学・プラスチック	101	46	51	3	43	100	39	60	1	38
製 窯業・土石	32	19	81	0	19	32	25	75	0	25
造 鉄鋼・非鉄	68	34	63	3	31	67	36	61	3	33
業 金属製品	36	31	69	0	31	36	31	69	0	31
一般機械	63	25	75	0	25	63	29	71	0	29
電気機械	85	26	72	2	24	84	24	74	2	22
輸送用機械	68	16	83	1	15	68	19	80	1	18
精密機械	13	23	62	15	8	13	23	62	15	8
その他	38	24	71	5	19	37	24	71	5	19
計	644	32	66	2	30	638	33	66	1	32
卸 生産財	40	30	68	2	28	40	28	68	4	24
業 消費財	33	27	73	0	27	33	39	61	0	39
計	73	29	70	1	28	73	33	64	3	30
合計	717	32	66	2	30	711	33	65	2	31

(3) 鉄道コンテナ運賃

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、精密機械が唯一マイナスを示し、窯業・土石および金属製品がゼロ水準にとどまる以外は、残り12業種がプラスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス8で、前期(2014年7～9月)実績からは弱含み横ばいで推移した。

■ 2015年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、繊維・衣服など5業種においてプラス幅が拡大する以外に動きはみられない。この結果、業種全体の『運賃動向指数』は2ポイント上昇してプラス10と見込まれ、運賃水準の上昇圧力はさらに強まるとみられる。

鉄道コンテナ運賃の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製 造 業	食料品・飲料	44	16	82	2	14	44	16	82	2	14
	繊維・衣服	12	33	67	0	33	12	42	58	0	42
	木材・家具	17	6	94	0	6	17	12	88	0	12
	パルプ・紙	34	6	94	0	6	34	9	91	0	9
	化学・プラスチック	82	6	92	2	4	82	10	88	2	8
	窯業・土石	13	0	100	0	0	13	0	100	0	0
	鉄鋼・非鉄	43	12	88	0	12	43	12	88	0	12
	金属製品	20	0	100	0	0	20	0	100	0	0
	一般機械	38	11	89	0	11	38	13	87	0	13
	電気機械	30	3	97	0	3	30	3	97	0	3
	輸送用機械	35	14	86	0	14	35	14	86	0	14
	精密機械	7	0	86	14	△14	7	0	86	14	△14
	その他	25	8	88	4	4	25	8	88	4	4
計	400	9	90	1	8	400	11	88	1	10	
卸 売 業	生産財	12	8	92	0	8	12	8	92	0	8
	消費財	16	19	81	0	19	16	19	81	0	19
	計	28	14	86	0	14	28	14	86	0	14
合計	428	9	90	1	8	428	11	88	1	10	

(4) 内航コンテナ運賃

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、精密機械が唯一マイナスを示し、繊維・衣服および木材・家具がゼロ水準にとどまる以外は、残り12業種がプラスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス12で、前期(2014年7～9月)実績からは2ポイント上昇した。

■ 2015年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、パルプ・紙など3業種においてプラス幅が縮小する一方、消費財卸など4業種でプラス幅が拡大する。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス13と強含み横ばいの推移が見込まれ、運賃水準の上昇圧力はさらに強まるとみられる。

内航コンテナ運賃の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し				
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	28	11	89	0	11	28	14	86	0	14
繊維・衣服	4	0	100	0	0	4	0	100	0	0
木材・家具	9	0	100	0	0	9	0	100	0	0
パルプ・紙	18	28	67	5	23	18	17	78	5	12
化学・プラスチック	51	10	88	2	8	51	10	86	4	6
製 窯業・土石	8	25	75	0	25	8	25	75	0	25
造 鉄鋼・非鉄	26	15	85	0	15	26	19	81	0	19
業 金 属 製 品	15	7	93	0	7	15	7	93	0	7
一 般 機 械	33	9	91	0	9	33	12	88	0	12
電 気 機 械	24	12	88	0	12	24	12	88	0	12
輸 送 用 機 械	27	11	89	0	11	27	7	93	0	7
精 密 機 械	8	0	88	12	△12	8	0	88	12	△12
そ の 他	21	19	76	5	14	21	19	76	5	14
計	272	12	87	1	11	272	12	86	2	10
卸 生 産 財	5	20	80	0	20	5	20	80	0	20
業 消 費 財	15	33	67	0	33	15	40	60	0	40
計	20	30	70	0	30	20	35	65	0	35
合 計	292	13	86	1	12	292	14	85	1	13

(5) 国内航空運賃

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、マイナスの業種は皆無で、窯業・土石など3業種がゼロ水準にとどまる以外は、残り12業種がプラスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス8で、前期(2014年7～9月)実績からは2ポイント上昇した。

■ 2015年1～3月の『運賃動向指数』見通しでは、生産財卸など3業種においてプラス幅が拡大する一方、一般機械および電気機械でプラス幅が縮小する以外に動きはみられない。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス8と横ばいの推移が見込まれ、運賃水準の上昇圧力は引き続き強い。

国内航空運賃の実績と見通し

業 種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製 造 業	食料品・飲料	16	6	94	0	6	16	12	88	0	12
	繊維・衣服	8	12	88	0	12	8	12	88	0	12
	木材・家具	7	14	86	0	14	7	14	86	0	14
	パルプ・紙	6	17	83	0	17	6	17	83	0	17
	化学・プラスチック	39	13	85	2	11	39	13	85	2	11
	窯業・土石	9	0	100	0	0	9	0	100	0	0
	鉄鋼・非鉄	24	8	92	0	8	24	8	92	0	8
	金属製品	18	6	94	0	6	18	6	94	0	6
	一般機械	47	13	87	0	13	46	11	89	0	11
	電気機械	54	4	94	2	2	54	4	93	3	1
	輸送用機械	31	6	94	0	6	31	10	90	0	10
	精密機械	11	9	82	9	0	11	9	82	9	0
	その他	19	5	90	5	0	19	5	90	5	0
計	289	8	91	1	7	288	9	90	1	8	
卸 売 業	生産財	8	12	88	0	12	8	25	75	0	25
	消費財	14	29	71	0	29	14	29	71	0	29
	計	22	23	77	0	23	22	27	73	0	27
合計	311	9	90	1	8	310	10	88	2	8	

(6) 営業倉庫保管料金

■ 2014年10～12月実績（見込み）の『料金動向指数』は、マイナスの業種は皆無で、窯業・土石など3業種がゼロ水準にとどまる以外は、残り12業種がプラスとなった。業種全体の『料金動向指数』はプラス8で、前期(2014年7～9月)実績からは横ばいで推移した。

■ 2015年1～3月の『料金動向指数』見通しでは、精密機械がプラスに浮上する一方、窯業・土石および電気機械がマイナスに沈む。この結果、業種全体の『料金動向指数』はプラス8と弱含み横ばいの推移が見込まれ、運賃水準の上昇圧力は引き続き強いものの、増勢は若干弱まるとみられる。

営業倉庫保管料金の実績と見通し

業種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し					
	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製造業	食料品・飲料	64	34	64	2	32	63	32	67	1	31
	繊維・衣服	19	11	89	0	11	19	11	89	0	11
	木材・家具	17	12	88	0	12	17	12	88	0	12
	パルプ・紙	34	12	85	3	9	34	15	82	3	12
	化学・プラスチック	89	9	88	3	6	89	7	89	4	3
	窯業・土石	21	0	100	0	0	21	0	95	5	△5
	鉄鋼・非鉄	60	10	88	2	8	60	10	88	2	8
	金属製品	24	12	88	0	12	24	8	92	0	8
	一般機械	59	10	90	0	10	59	10	88	2	8
	電気機械	60	2	96	2	0	60	2	95	3	△1
	輸送用機械	57	7	91	2	5	57	14	82	4	10
	精密機械	12	8	84	8	0	12	17	75	8	9
	その他	37	5	92	3	2	37	5	92	3	2
計	553	11	87	2	9	552	11	86	3	8	
卸売業	生産財	26	12	85	3	9	26	12	81	7	5
	消費財	27	19	81	0	19	27	19	81	0	19
	計	53	15	83	2	13	53	15	81	4	11
合計	606	11	87	2	9	605	11	86	3	8	

－ 6. 物流コスト割合の動向－

■ 売上高に対する物流コスト割合の動向について、2014年10～12月実績（見込み）の『動向指数』は、精密機械が唯一マイナスを示し、残り14業種がプラスとなった。業種全体の『動向指数』はプラス30で、前期（2014年7～9月）実績からは6ポイント上昇した。

■ 2015年1～3月の『動向指数』見通しでは、消費財卸など4業種においてプラス幅が拡大する一方、金属製品など過半数の業種で低下する。この結果、業種全体の『動向指数』は4ポイント低下してプラス26と見込まれ、増勢は若干弱まるものの、物流コスト割合の上昇圧力は依然として強い。

物流コスト割合の実績と見通し

業種	2014年10月～12月実績					2015年1月～3月見通し				
	回答社数	構成比(%)			動向指数	回答社数	構成比(%)			動向指数
		上昇	不変	下降			上昇	不変	下降	
食料品・飲料	98	52	47	1	51	97	53	45	2	51
繊維・衣服	38	32	63	5	27	38	34	55	11	23
木材・家具	33	33	55	12	21	33	39	46	15	24
パルプ・紙	48	40	52	8	32	48	42	50	8	34
化学・プラスチック	113	41	53	6	35	113	34	58	8	26
製 窯業・土石	41	39	51	10	29	41	34	54	12	22
造 鉄鋼・非鉄	105	36	60	4	32	105	32	64	4	28
業 金属製品	49	43	51	6	37	49	31	63	6	25
一般機械	91	42	53	5	37	91	40	54	6	34
電気機械	113	39	51	10	29	113	34	55	11	23
輸送用機械	89	21	67	12	9	89	25	61	14	11
精密機械	22	9	77	14	△5	22	9	73	18	△9
その他	52	33	56	11	22	52	31	58	11	20
計	892	37	56	7	30	891	35	56	9	26
卸 生産財	51	29	65	6	23	51	35	53	12	23
業 消費財	50	28	60	12	16	50	36	56	8	28
計	101	29	62	9	20	101	36	54	10	26
合計	993	37	56	7	30	992	35	56	9	26